

学びの道しるべ

小松市立丸内中学校

この「学びの道しるべ」は、令和7年4月の本校3年生を対象に実施された調査結果に基づいたものです。

1. 全国学力・学習状況調査結果（本校と石川県・全国との正答率の比較）

	石川県	全国
国語	平均並み	上回る
数学	やや下回る	上回る

全国との比較においては、国語も数学も上回る結果に、県との比較においては、国語は平均並み、数学はやや下回る結果となりました。

本校の特徴として、既習事項が身についており、結論が分かっているときに、その結論までの筋道を立て考えることができます。一方で、前年度課題としてみられた「意見と根拠」など、情報と情報との関係を理解することや、複数のデータを関連付けて読み取ったり説明したりすることにおいては、依然として課題が見られます。

2. 設問ごとの良好なもの（◎）と課題となるもの（△）

国語
◎文学的な文章では、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。【選択式】
◎事象や行為を表す語彙について理解している。【選択式】
△自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題に課題が見られる。【記述式】
△読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題において課題が見られる。【記述式】
数学
◎素数の意味を理解している。【短答式】
◎多角形の外角の意味を理解している。【短答式】
◎必ず起ころる事柄の確率について理解している。【短答式】
◎ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる。【記述式】
△不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。【記述式】
△事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることに課題が見られる。【短答式】

3. 質問紙調査の結果から良好なもの（◎）と課題となるもの（△）

◎困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人に相談できる生徒の割合が高い。

◎学校の授業以外にICT機器を勉強に使っている生徒の割合が高い。

◎地域の大人に授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある生徒の割合が高い。

◎将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと考えている生徒の割合が高い。

△自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う生徒の割合がやや低い。

△分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え、工夫している生徒の割合がやや低い。

△普段（月曜日から金曜日）の学習時間（学習塾・家庭教師の先生に教わっている時間など含む）において、3時間以上取り組んでいる生徒の割合が低い。

△授業や学校生活では、友達や周りの人の考え方を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる生徒の割合がやや低い。

4. 全国学力・学習状況調査、質問紙調査の結果を踏まえた取組について

学校での取組

基礎基本の定着に向けて

- ・スキルタイムや小テストを使って基本的な語彙や表現、公式などを定着させています。
- ・根拠を明確にして書いたり話したりする学習活動の時は根拠の適切性を確認しています。
- ・複数の資料を関連付けて考察したり、読み取ったことを既習と結びつけたりして、今学んでいることが何につながっているのかを自覚できるようにしています。
- ・自分の言葉で書く学習活動を入れていく時に、語彙が増えるようなしきけ（ペア・辞書・ヒント）をしています。

学級会活動・生徒会活動との関連

- ・委員会やリーダー会を中心に、学習習慣や生活習慣の見直しや定期テストに向けて学習時間を確保する取組を計画的に行ってています。
- ・学級会やエンカウンターなどを行い、自分の意見を伝えたり、友達の意見を受けいれたりする力を育み、話し合いの土台を作っています。

ご家庭にお願いしたいこと

- ・起床・就寝時刻や家庭学習の開始時間、食事等、規則正しい生活習慣になるように声かけをお願いします。
- ・メディアはご家庭でルールを決めて、節度ある使用になるように声かけをお願いします。

活用力の向上に向けて

- ・自分の考えを持ち、生徒同士で学び合う学習活動では、根拠を明確にして表現する「丸中学びの心構え」を意識できるようになっています。
- ・いろいろな情報から必要な情報を取捨選択し、活用できるような取組を各教科で実践しています。
- ・協働的な学習の場面において、学習用端末を効果的に活用した授業実践に努めています。

丸中学びの心構え

- ・自分の考えをもち、根拠をもとに伝えよう。
- ・比較しながら聴き、自分の考えを広げよう。

